

紹介します！安全・健康職場

トップが率先、全員で進める KY 活動

富士臨海(株)

富士臨海(株)は富士石油(株)袖ヶ浦製油所構内での海上および陸上入出荷や消防防災、石油備蓄基地の運転管理など、多岐にわたる業務を 24 時間体制で実施している。

また化学プラントなどにおいて、超強力吸引車による塔槽内充填物の吸引(クリーニング)を行う業務を北海道から関西圏まで広く各地で展開している。

今回は同社の簾内清人・代表取締役社長と、社内養成の KYT インストラクターの代表を務める吉田友顕・業務部業務課長にお話を伺った。

■ 常に危険と隣り合わせ！

同社でのさまざまな業務は「常に危険がすぐ隣にある状態」(吉田さん)であり、各現場の実情に沿った安全衛生活動が必須である。例えば、船舶は大きいため、深い船底に下りて行く点検作業など必然的に高所に立つ場面が多々ある。また、船の上から投げられたロープを受け取る綱取りをしたり、狭い場所に体を入れて作業しなければならなかったり、吸引車であればホースに手を巻き込まれたりといった危険もある。

特に、広く各地で行われるクリーニング業務は 1～3 人の少人数で安全スタッ

フの目の届かない現場に向かうことも多いため、自主的な危険予知(KY)活動が非常に重要である。

■ 毎月実施の KY 研修には社長も立会い

社員一人ひとりの危険予知能力を高めるため、同社では毎月 KY 教育を行っているが、そこには必ず社長の姿がある。

毎月行われている安全のための職場巡視もその一環で、取材当日は 3 職場の巡視が行われた。

同日には社長立会いの下で KY 研修も行われる(写真 1)。この研修は少人数による教育で、各部署が受講してほしい人を選定するが、「若手だけになるとレベルアップにつながりにくいので、ベテランと若手がバランスよく参加するように調整するのは苦労します」(吉田さん)とのことである。

取材当日は吉田さん以外に KYT トレーナー 3 人、社員 5 人が参加し、2 チーム(トレーナー 2 + 社員 2、トレーナー 1 + 社員 3)に分かれて研修が行われた。2 時間ほどかけて 4R(ラウンド)法を 3 回実施、社長もずっと立ち会っていた。研修では 3 題のイラストシートに取り組み、1 回目はトレーナー



写真1 社員を見守る簾内社長（右）

がリーダーを務め、2・3回目は社員がリーダーとなり、4R法を進行していた。

研修は基本のとおり導入（整列、健康確認など）で始まり、最後は社長も加わったタッチ&コールで締めくくられた。

健康確認は「目が赤いけど、睡眠は十分とれている？」「昨日は草取り作業があったけど腰は痛くない？ 今日腰を使う作業があるから、もし腰に違和感があったらメンバーチェンジをするので言って」など、きめ細かに行われていた。

その後、イラストシートの中からリーダーが任意のものを選んで4R法を実施。1R目では3項目以上の危険を出し合った後、全員の意見が一致するまで話し合い、その中の1項目を危険のポイントとして絞り込んでいた。また、対策についても同様に、話し合いで1項目に絞り込むという過程を経て、チーム行動目標と指差し呼称項目が決定されており、活発な話し合いが職場自主活動の推進に一役



写真2 各ポイントについて指導する吉田さん

買っているのがうかがえた。

4R法を実施している最中、トレーナーはできるだけ社員に進行を任せつつも、出された危険について「勢いをつけて重い台車を押そうとして、台車に足をぶつける」という意見が出ると、すかさず「重い台車を押そうとしたときに、動かなかったので台車に足をぶつける、ではないの？」と細かい指導が入ってい

と最初から教えます」(吉田さん)。

■ ライン化の徹底

同社では平成22年～平成26年の間、毎月コンサルタント(中災防公認KYTインストラクター*)の指導を受けたり、ゼロ災運動プログラム研究会(プロ研)を受講したりすることで、KYTトレーナーを養成した。その結果、現在は吉田さんを筆頭に7人のKYTトレーナーが社内で活躍している。各セクションに1人ずつ、人数が多いセクションには2人のトレーナーがおり、各職場の指導にあたっている。また、課長代理以上の社員には必ずプロ研を受けさせるなど、いわば安全が分かっている人を職場に置くことにより、ライン化の徹底が図られている。

■ 社長直属のトレーナー

同社のKY活動で特徴的なのは、KYTトレーナーが全員、社長直属という立場で活動していることだ。

「社長直属という肩書きをいただいているので、KYに関しては幹部の方にもしっかりと意見が言えるんです。そこを徹底していただいているので、活動がしやすくなっています。例えばトレーナーがこれをやりたいと言って、いいね、やろうと思ったら部長でも逆らえないんです(笑)。おかげで忙しいからと断られることもありません」(吉田さん)。

また、吉田さんが公認KYTインストラクターを取得したいと社長に相談したところ、取得に時間がかかるため、通常業務に影響があるのにもかかわらず、すぐに許可が出たということからもゼロ災

運動に対するトップの熱心な姿勢がうかがえる。

■ 毎年KYコンテストを開催

同社では年に一回、トレーナー全員が主導してKYコンテストを開催している。このコンテスト前には、審査基準にバラつきが出ないように、トレーナーが審査する役員を集めて勉強会を行うという徹底ぶりである。

「一生懸命に短時間KYを実施してくれている社員がいるのに、採点する人がその基本を間違っははいけませんからね。こうして役員の方を呼び出せるのも社長直属という肩書きのおかげです(笑)」(吉田さん)。

■ ゼロ災の3本柱に忠実に

トップがKYTトレーナーを直轄し活動にも率先して参加する。KYTトレーナーを各現場で養成し、現場のKY活動をリードする。そして日々のKY活動やコンテストで現場の安全水準の向上を促す。

富士臨海(株)では、こうしたゼロ災運動の3本柱である「トップの経営姿勢」「ライン化の徹底」「職場自主活動の活発化」をもとにしたKY活動が行われている。

トップの危機意識が会社を変え、スタッフとラインが成長し、職場の自主的な取り組みにつながっている姿が見て取れた。(編集部)

*ゼロ災運動に係る研修会において、講師またはコーディネーターを行うにあたり、一定の登録要件を満たした者に対して、本人の申請により、中災防が登録を行うもの。